

地域内での自給飼料確保に向けた取組

—汎用型飼料収穫機導入による稲WCSの安定生産—

1 活動のねらい

八千代市において、地域内での稲WCS生産・利用拡大に向け、耕種農家と酪農家の連携強化が求められています。畜産農家の飼料費低減と耕種農家の収穫作業の負担軽減を目指し、普及活動を行いました。

2 課題の背景

八千代市内には15戸の酪農経営体が存在し、飼料費の高騰を背景に自給飼料の需要が高まっています。市内でのWCS用稲の作付けは平成26年度から行われていますが、畜産農家の需要に答えきれていないのが現状でした。また、収穫作業は他地域のコントラクターに委託して行っていたので、適期の刈り取りができず、籾の完熟による品質の低下や、刈り取り後のほ場の耕うんの作業性の悪化が課題となっていました。そのため、稲WCSの安定的な生産と供給のためには、地域におけるコントラクターの育成が必要でした。

3 普及活動の経過・結果

(1) 普及活動の経過

ア 耕種農家と酪農家による共同利用に向けた合意形成

飼料作物の栽培は、畜産経営の安定と耕作放棄地解消の両面から重要と位置付けられており、地元でのコントラクターによる計画的な収穫作業が求められていました。平成29年度、市内の酪農家と耕種農家から稲WCSの生産に係る機械の導入の要望が挙がったことをきっかけに、コントラクターの設立に向けて検討を始めました。農家と関係機関で、機種を選定や出資・作業利用料金等について協議を重ねました。

イ 飼料生産組合の設立と機械導入

平成29年6月、畜産農家2戸と稲作農家1戸で「八千代飼料生産組合」を立ち上げ役割分担などを決定しました。9月にデモ機を用い作業性の検討と、完成した稲WCSの品質の確認を行いました。検討を重ねた結果、汎用型微細断飼料収穫機と自走式バールラップを導入することが決定しました。

ウ 稲WCS作付けの推進

収穫機の導入にあたり、八千代飼料米生産・利用協議会を通じWCS用稲の作付けを呼びかけました。今年度のWCS用稲栽培面積は、ここ数年米価の推移が堅調であったことなどが影響し微減となりましたが、稲WCSの生産は地域の水田維持のためにも必要であるとの共通の意識が高まりました。

(2) 活動の結果

ア 稲WCS専用品種作付けにあたっての技術指導と買取り価格の調整

収穫機の導入により、今年度は収穫作業の時期が早まることが予想されたため、耕種農家に対し、早期の落水を呼びかけました。また、雑草が著しいほ場については、耕種農家・酪農家と協議し買取り価格の調整を行いました。

イ 収穫機の導入

平成30年9月、「飼料生産拡大事業」を活用し、汎用型飼料収穫機とベールラップが導入されました。収穫作業は例年より1か月以上早く9月22日にスタートしました。早期に刈取りを開始できたことで、これまで課題となっていた倒伏による収穫不能となる株も発生せず作業は順調に進みました。また、収穫後の耕うんもスムーズに行われました。

ウ 作業料金と販売代金の設定

昨年までは、コントラクター組織への作業料金の支払いは、収量に関係なく酪農家がすべて負担する形で行われていました。機械が導入された今年度からは、八千代飼料用米生産・利用協議会において作業料金および販売代金の取り決めを行うことになりました。収量により所得が変動するため、収量や品質の向上に対する意識が高まりました。



汎用型飼料収穫機による収穫作業



ベールラップによるラッピング

4 今後の課題

コントラクター組織の発足により稲WCSの安定的な供給が可能となり、地域の耕種農家と畜産農家の連携強化に結び付きました。今後はコントラクター組織の経営強化のため、稲WCSに加え、汎用型飼料収穫機を活用した飼料用トウモロコシの刈取り作業受託についても検討を進めます。また、耕作放棄地の解消にも期待がかかります。

5 担当者 八千代グループ

6 協力機関

八千代市、JA八千代市